



パワー浜松ロータリークラブ週報2014年8月5日号 本年度テーマ: Rotary Mind、Rotary Wayを確認しよう ～心で感じて・考えて・活動しよう～

パワー浜松ロータリークラブ(2014-15年度会長:小林昭次)
〒430-7733 浜松市中区板屋町111-2 オークラクトシティホテル浜松4307号室
Tel:053-452-0800 Email:info@power-hamamatsurc.jp
http://www.power-hamamatsurc.jp
創立:2002年10月22日 認証伝達式:2003年4月29日 スポンサークラブ:浜松中RC



第544回例会 8月5日 AM7:30～8:30 オークラクトシティホテル浜松4F平安の間

- 司会:鈴木一広、奥山恵理子 ●点鐘:小林昭次 ●ロータリーソング:奉仕の理想
 - ゲスト:卓話者 鶴田俊美様 奥様 季子様・米山記念奨学学生 暢婉君さん
 - 例会見学:小山久江様
 - 議事:会員増強維持・女子会員増強委員会 鶴田俊美様 卓話「男女力を合わせた生き方の実践」
- ＜出席報告＞本日出席率70名 85.37% 前々回出席率87.8%

■会長挨拶

おはようございます。今日は住宅の話をする。
上質な住宅にはいろいろな切り口があると思います。
一つの切り口としては、空気がいいという事です。これは、住宅の性能で、機密、断熱性の数値が高い、この効果は、家、部屋の中で空気ムラを作らない事。それが上質な住宅とお考えいただきたいと思います。
人間は、環境化学物質を嫌でも取り込んでいる訳ですが、大学の先生の研究結果の発表では、食べ物からは全体の7%ぐらい、飲み物は8%、全体の83%は、肺呼吸で化学物質を取り込んでいると言われています。食べ物の事はよく心配しているんですが、実はほとんどが呼吸で摂取していると言われています。九州は、PM2.5が深刻ですが、空気質のいい住宅が、良い住宅という考え方もあります。頭の片隅において頂ければと思います。
できれば、空気の良い住宅に住んで、奥さんとの関係も空気良く、いい家庭でありたいと考えます。今日は、空気だけに軽い話で終始しました。今日一日宜しくお願い致します。

■幹事報告

ゲストの皆様、早朝よりお越し頂きありがとうございます。蠍座、しかもB型の末広さくらです。
第544回幹事報告をさせていただきます。
本日の配布物は、前年度のガバナー月信最終号と今年度のガバナー月信第2号、ロータリーの友8月号、2013～2014年度のロータリー財団寄付領収書及び税額控除に関わる証明書です。
来週8月12日火曜日の例会は夏期特別休会となります。お間違えない様にお願いします。
次回例会8月19日に皆さんの素敵な笑顔に会える事を楽しみにしています。

■委員会報告

- 募金活動委員会 村井睦彦さんより
先々週、お休みして富士山支援金の募金ができなかった人のために募金箱をまわしていますので、よろしくをお願いします。先週の東北支援金は、お陰様で87,403円集まりました。ありがとうございました。
- 米山記念奨学委員会 小澤邦比呂さんより
第1回米山記念奨学委員会が7月9日(日)に長泉町の米山梅吉記念館において開催されました。ガバナー月信8月号に詳細が掲載されていますのでご覧ください。





■ 議事 ラジオ番組メインパーソナリティ

鶴田俊美様 卓話 「男女力を合わせた生き方の実践」

浜松には、日系ブラジル人が多く住んでいます。現在、ブラジル・ペルー・フィリピン・中国・ベトナムの各国の方々が出演する浜松ならではのラジオ番組のパーソナリティとJICEで日本語教師をしています。

しかし、4年前までポルトガル語ができませんでした。偶然、地元の大学で「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」で日本語講師養成講座があることを知り、中国語・フランス語・ポルトガル語の講座を受けました。それにより、浜松での外国人の生活状況を知るようになり、ブラジルの現地の生活にも興味をもつようになりました。

そこで、JICAのシニアボランティアとしてブラジルで日本語教師として働くことになったのです。現地では移民した日系人が、こいのぼりを挙げ、盆踊りをし、ひな人形を飾る日本文化を承継していました。

陶芸家の妻も同行しましたが、日本の陶芸文化の「わび・さび」は理解してもらえませんでした。現地は、「白く・大きく・同一規格」の皿を好む文化です。それは、肉や野菜を一つの皿にのせて混ぜて食べる習慣であることが理由の一つです。しかしながら、幸運にも妻はブラジル人の陶芸家と知り合い、陶芸講座を開催するまでになりました。

ところが、妻は悪性腫瘍を患い、日本に帰国して治療をすることになるのです。

私はブラジルに残り、日本語講師の任期が満了して日本に戻って現在に至ります。

妻を治療してくれた医師とは現在も親交があり、本当に感謝をしています。3年間のブラジルで生活では家族と友人の大切さを知ることになりました。皆さんも家族と体を大切にしてください。外国人を応援してください。

ご清聴ありがとうございました。